

名蔵湾保護水面調査（要約）

杉山 昭博

本調査結果についてはすでに「昭和59年度保護水面管理事業調査報告書」（沖水試資料No.86）で報告したので、ここでは調査内容と結果を要約して記載する。

1. 目的および内容

水産動植物の繁殖保護のため海草藻場を保全し、あわせてその生態的メカニズムを解明するため植物、餌料生物、魚類、および環境面から各種調査をおこなった。植物調査はリュウキュウアマモとリュウキュウスガモの生育密度の周年変化を、餌料生物としては底生動物と葉上動物の生息量を調べた。また、小型追い込み網と柵網による漁獲試験と既設の人工礁を観察して、藻場付近の魚類相を調べ、さらに保護水面設定時から継続して実施している水質調査もおこなった。

2. 要約

(1) 定点に方形枠を3ヶ所設置し、毎月枠内のリュウキュウアマモとリュウキュウスガモの株数を計測した。リュウキュウアマモは前年度に比べて株数の減少傾向がみられ、リュウキュウスガモは5、6、7、および8月にかけて比較的多くみられた。

(2) 1984年7月9日と12月4日に底生動物の調査をおこなった。個体数では線虫類、遊在目、および定在目が多く出現し、重量では遊在目と定在目が多く出現した。

(3) 1984年4月21日から1985年2月7日まで葉上動物の調査をおこなった。出現数量は6月頃にピークがみられ8、9月の夏季には減少し、その後再び増加する傾向が認められた。種類別では遊在目、端脚目、および長尾類が多く、端脚目は周年にわたり大きさの変動が小さい。

(4) 1984年6月11日から16日まで柵網漁獲試験をおこなった。5日間の取り上げで合計25種類、74個体、約2.2.6 kgの漁獲があった。多く漁獲したのはモンツキアカヒメジ、ノコギリダイ、ゴマアイゴ、およびアオリイカなどであった。

(5) 1984年4月16日から10月23日まで幼稚魚調査を実施した。期間中の採捕物の合計は約45種類、872個体で、オジサン、イソフエフキ、ヒメフエダイ、ロクセンスズメダイ、ルリスズメ、およびアイゴ類などを多く漁獲した。

(6) 1984年10月23日に人工礁調査をおこない約12種類、84個体の魚がみられた。

(7) 1984年5月18日、7月6日、10月3日、および1985年1月11日に水質調査をおこなった。結果は前年度と比較してあまり変化はなかった。